

主な内容

P1…九州北部災害中学生と炊き出し支援

P2…たんぽぽ活動報告7月～9月

P3…たんぽぽ活動報告7月～9月

P4…たんぽぽお歳暮2012他

e-mail:tanpopo-happy3232@opal.plala.or.jp

九州北部豪雨災害 中学生と炊き出し支援



7月27日(金)、たんぽぽハウスと西原中学校2年生有志13名が共同で阿蘇市保健センターと阿蘇一ノ宮中学校体育館にて炊き出しを行いました。去る7月12日、九州北部地方を襲った大雨は阿蘇乙姫で最大1時間降水量が108.0ミリ、最大24時間降水量が507.5ミリ、最大24時間降水量で8地点での観測が史上1位の値を記録しました。「これまでに経験したことがないような大雨」と気象庁が表現するほど今回の大雨は、九州北部地方に甚大な被害をもたらしました。2週間が過ぎた頃、阿蘇地方では各地域に避難された方々がまだまだ大勢おられ、床上浸水した家の泥出し作業などに多くのボランティアが阿蘇を訪れていました。そんな時、中学生がたんぽぽハウスを訪れ、「泥出し作業のボランティアに申し込んで、何か出来る事は無いかと相談を受けました。たんぽぽハウスとしても何かボランティアは出来ないかと考えていたところだったので、共同で避難所の炊き出しを行うことになりました。沢山あった避難場所から、阿蘇市保健センターと一ノ宮中学校体育館を紹介して頂き、おにぎり・豚汁・お好み焼きをそれぞれ150食分用意することになりました。前日の買い出し、仕込み、そして、当日早朝からおにぎり作りや、お好み焼きの仕込みなど、現地にお昼までに届けるため急ピッチで作業に取り掛かりました。準備ができる」と西原村教育委員会からマイクロバスを出して頂き、荷物を積み込んで現地へ向かいました。到着すると阿蘇市保健センター隣の駐車場にテントを張り、迅速に準備に取り掛かりました。中学生が、避難されている方々に一人ずつ声を掛けながら、おにぎりや温かい豚汁を配ってまわり、その間にたんぽぽメンバーはお好み焼きを作り、中学生が焼けた順番に配ってまわりました。「美味しい!」「ありがとう!」と声を掛けられると中学生たちも嬉しそうでした。今回、中学生の発案にたんぽぽハウスが協力するという形でしたが、主体的に行動していた中学生は、終始機敏に、何事にも真面目に取り組んでいました。そして、その顔は生き生きと輝いていて、小学校から知っている子供たちの成長を感じました。

たんぽぽ活動報告7月～9月

ボランティアセンター かき氷配布

8月4日(土)、阿蘇市災害ボランティアセンター(旧役犬原小学校)にて、たんぽぽハウスと西原中学校2年生有志で、かき氷の無料配布を行いました。九州北部豪雨災害により甚大な被害を受けた阿蘇地方に、連日沢山のボランティアが訪れていました。この日も県内外から800人を超えるボランティアさん超える気温の中、床上浸水した家屋の泥出しなどの作業を汗と埃と泥まみれになってされていました。午後3時過ぎ、作業を終えられたボランティアの方々が続々戻って来られ、仲間と中学生がねぎらいの言葉を掛けながらかき氷を配布して回りました。喉がカラカラだったのか、かき氷をかき込む様に頬張られていました。用意した400杯分のかき氷はあっという間に無くなり皆さんに大変喜んで頂きました。



レベッカ送別会



8月7日(火)、たんぽぽハウスの隣人であるアメリカ人のレベッカ(SAIF 外国語指導助手)が、8月11日に3年の任期を終え帰国することになり、たんぽぽハウスで送別会を開くことになりました。お世話になった中学生も数人、料理作りから加わりました。レベッカは、気さくな性格でよくたんぽぽハウスに遊びに来て仲間たちとも親しくなっていました。最初、片言だった日本語も今では普通に話せるようになり、日本語で手紙も書けるようになっていました。皆でレベッカのために、ちらし寿司・天ぷら・焼き焼き・茶わん蒸しなど代表的な日本食を作ってもてなしました。「ニホンノタベモノダイスキ!」と大喜びしていました。食後は、皆でゲームをし、最後の別れを惜しみました。

萌の里夏祭り

8月13日(月)、萌の里にて「萌の里夏祭り」が催されました。朝から雨の予報も一日何とか持ちこたえ、大勢のお客さんが見えになりました。ステージでは、地元夢運太鼓の演奏や、カラオケダンスのダンス、カラオケ大会などで盛り上がっていました。露店では、地元商工会、萌の里、の露店が並ぶ中、毎年たんぽぽハウスにも声を掛けて頂いて露店を出させて頂いています。今回は、焼きそば・イカ焼き・焼き鳥を出させて頂きました。萌の里に着すると準備する間も無く行列がで始め、追われるように販売が始まりました。今回沢山のボランティアさんが駆けつけてくださり、慌ただしくも何とか回り、全て完売することが出来ました。



西原村夏祭り



8月25日(土)、阿蘇ミルク牧場において「西原村夏祭り」が催されました。西原村商工会が主催することお祭りにはテキヤは入りませんが、地元商工会や、各ボランティア団体などの沢山の露店が並びます。たんぽぽハウスも毎年声を掛けて頂いて露店を出させて頂いています。今回、焼きそば・イカ焼き・串カツ・サラダ巻きなどを出させて頂きました。天気にも恵まれた今回、昨年にも増して大勢のお客さんが見えになり、5時の開始を待たずたんぽぽハウスのテントの前には行列ができて始めました。9時の終了を待たずほとんどが完売。最後の打ち上げ花火を見ながら、ほっと一息でした。

24時間テレビ 阿蘇ミルク牧場

8月26日(日)、阿蘇ミルク牧場において24時間テレビの募金活動を行いました。阿蘇ミルク牧場は6年前から24時間テレビのミドルバンク受付会場をされており、ボランティアとして、西原村観光推進協議会・UD くまもと・手話サークル・西原中学校生徒会の皆さん他、たんぽぽハウスも当時から参加させて頂いておられます。この日は、30℃を超える猛暑の中、参加したボランティアの皆さんは一日中元気な声で募金を呼びかけていました。前日、夜遅くまで夏祭りの後片付けに追われたたんぽぽメンバーでしたが、この日も元気に朝から募金活動に頑張っていました。



第2回くまもと福祉の ラウンドテーブル開催

8月26日(日)、熊本市の健康くらしささえ愛工房において「第2回くまもと福祉のラウンドテーブル」が開催されました。今回は、ゲストに潮谷義子前県知事をお迎えして「つれづれに想うこと」と題して特別講話をして頂きました。社会福祉法の現状の中で地域福祉の位置付けや人材育成、求められる地域視点など、「理論は実践に学び実践は理論に学ぶ」と強調されました。その後、熊本の先進事例として玉東町社協の中嶋範子氏から小規模ホーム「はぶの」の活動報告を、八代市のとら太の会の山下順子氏から地域共生ホームの発表がありました。また、水谷健康福祉部政策調整審議員から平成24年度の主要施策の説明があり、盛りだくさんの会合となりました。



西原中学校職場体験学習



9月10日(月)から14日(金)に掛けて西原中学校2年生の「民の子塾」職場体験学習が行われ、5名の女子中学生がたんぼぼハウスで学ぶことになりました。たんぼぼハウスでは、農作業や製品作り、朝食作りや昼食作りなど様々なことを仲間たちと共にやって頂きました。農作業では、日中30℃を超える気温の中、汗だくになりながら畑の草取り作業や落花生の収穫作業をやってもらい、別の日では味噌作りを、大豆を洗うところからやってもらいました。食事作りでは、使い慣れない包丁を持って朝食と昼食作りに奮闘。初めてとは思えないくらい上手に作っていました。「味噌作りが一番面白かったです。早くお味噌が食べてみたいですね!」と、最終日の感想を述べていました。

西原中学校農業体験学習

9月12日(水)から14日(金)までの3日間、西原中学校1年生の農業体験学習が行われました。農業体験学習では、農家のお宅に宿泊し、3日間農作業のお手伝いをしながら農業を学ぶというカリキュラムで、たんぼぼハウスの施設長の上村さんのお宅に3名の女子中学生が来ることになりました。農業体験はたんぼぼハウスでの農作業をお手伝いすることになり、すでに5名の中学生が職場体験で来ており、たんぼぼハウス内は大賑わいになりました。1年生の農業体験は、2年生と一緒に畑の草取りや、落花生の収穫作業、味噌作り、朝食・昼食作りと3日間通してやってもらいました。2年生に比べると体が小さい1年生でしたが、どの子も元気で、どんなことにも興味津々で臨んでいました。



敬老秋祭り



9月23日(日)、特別養護老人ホームみどりの館において「敬老秋祭り」が開催されました。今年で4回目を迎え、毎年参加させて頂いておられます。一週間ほど前からやっと秋らしい陽気となり、猛暑続きだった毎日から解放され、予定していたかき氷を急遽中止にしたくらいでした。露店には、地域のお店の方々が出展され、それを目当てに来られるお客さんも沢山おられます。たんぼぼハウスのテント前も常連さんですぐ行列となりました。みどりの館の駐車場には特設会場が設置され、ステージでは、琉球國祭り太鼓のパフォーマンスや、ボンボ藤井さんと子供達のくまもん体操など多彩なゲストがステージを盛り上げていました。祭りの最後は、豪華景品の当たる抽選会で大いに盛り上がりました。

西原村子育て広場と交流

9月28日(金)、たんぼぼハウスの畑で西原村子育て広場の方々や落花生の収穫体験をしました。子育て広場との交流は、毎年、年に3回ほど行っており、ピザ教室やおやつ教室の他、今回のような収穫体験もしています。今回は、親御さん10名、お子さんが15名、スタッフさん4名の29名が来られました。たんぼぼハウスの直ぐ傍にある落花生畑に徒歩で行き、仲間たちのお手本のとおり収穫してもらいました。子供たちは、お天気も良かったのか皆裸足で土の上を走り回っていました。初めて落花生の収穫をする親御さんもおられ、親子で大はしゃぎしながら収穫していました。収穫した落花生は、水洗いして塩ゆでようとして持ち帰ってもらい、後日、「大変美味しかったです!」と報告がありました。





たんぽぽ お歳暮2012



(▲写真は昨年のお歳暮セットです。)

昨年、大変好評をいただきました、たんぽぽハウスのお歳暮セット。今年は、さらにグレードアップしてご提供いたします。総額 4000 円以上のたんぽぽオリジナル製品詰め合わせセットを 3000 円で販売いたします。無肥料無農薬の農産物加工品や、種まきから製品作りまで一貫してこだわり抜いた製品まで、どれも自信を持ってお届けいたします。たんぽぽメンバーが心を込めて作ったこれらの商品は、他では手に入らないお歳暮商品と自負しております。今年もどうぞよろしくお願ひいたします。ご注文の受け付けは **11月30日(金)締め切り**で NPO 法人にしはらたんぽぽハウス (096-279-3666) まで電話もしくは FAX でお申し込みください。

(※内容は昨年と多少異なる場合がございます。)



▲炊き出し前日の仕込みを、中心となってやってくれた仲よし四人組。包丁使いも慣れたもの。

災害支援の炊き出しの中心となってボランティアをしてくれた中学2年生の仲よし四人組。前日の買い出しや仕込みも中心となってやってくれました。彼女たちが小学校6年生の時、東日本震災チャリティーバザーと一緒にやって、それ以来いくつものボランティアやチャリティー活動を共にしてきました。今年の夏の阿蘇でのボランティア活動も彼女たちの発案が切掛けでした。夏休み明けに彼女たちがたんぽぽハウスを訪れ、ボランティア部を作りたいと相談してきました。その言葉に感激し、学校の先生を説得するため、企画書づくりを進めました。その企画書とたんぽぽと活動した様々なボランティアやチャリティー活動の写真と合わせて中学校に提出したところ、職員会議の末、ボランティアサークルとして認められたそうです。名前は、「れんこん」。泥の中で成長し、そこから綺麗な蓮の花を咲かせる様子が、自分たちと重なったそうです。自分たちで考え、自分たちで行動する。そんなバイタリティーあふれる彼女たちの今後の活躍が楽しみな今日この頃です。

たんぽぽな風景 その6
れんこん誕生

編集後記

8月4日、災害ボランティアセンターでかき氷配布をしたとき、続々と帰って来られるボランティアの中には、高校の部活動グループや会社のグループ、若い人から高齢者まで様々な人がおられました。埃まみれになって帰ってこられたその顔はキラキラと輝いていて、そこで知り合った人達は帰り際、握手や抱擁、記念写真など新しい絆が生まれていました。数日後、西原村社協に「災害ボランティアセンターでかき氷を頂きありがとうございます。心遣いに感謝いたします。中学生によるしくお伝えください。」と佐賀県の方から電話があったと連絡が入りました。災害現場は、悲しみばかりじゃない、なにかとても大切なものが生まれている、そんな気がしました。

編集委員 久保田



行列の出来ない人気店

8月のある日、山西小学校4年生数人がたんぽぽハウスのお昼ご飯を食べに来ました。まだ準備中だったところ率先して昼食のコロッケ作りを手伝ってくれました。聞くと、たんぽぽハウスの田圃の草取り応援団として来てくれた子供達で、その時200円で食べられると聞いてやって来たそうです。この数日前にも同じクラスの男の子2人が食べに来てくださいました。どんどん増えるお客さんにちよつとした人気店みたいな気分でした。

行事予定	
11月	4日 布田秋祭りバザー 6日 熊本豊学校職場体験 10日 ボランティアフェスティバル 15日 さわかか大学校ボランティア 18日 西原村ふれあい祭り 23日 下小森ふれあい感謝祭 29日 山西小ボランティア委員会来訪
12月	子育て広場さんとビザ作り教室 29日 仕事納め
1月	5日 仕事始め 12日 第6回全国校区小地域福祉活動サミット